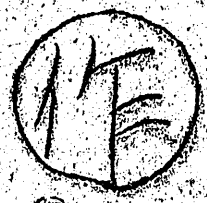


人

四 受信〇三二五 了〇五五〇 電〇二〇二七 作概〇 航本

急



八 海 防 艦

大海一部・三二海防艦・二二海防隊  
一隊艦隊

機密第〇三一〇一二番電

發 參謀

海八機密第〇三〇一四五番電關聯

當時視界爆音ノ狀況高度機種發見出ルズ（爆彈投下前又ハ後）彼我ノ  
味方識別信號爆彈敵同回敵味方反撃ノ狀況等報告アリ度追テ夜間味方  
飛行機無通告ニテ哨戒帯内ヲ飛行シアリトハ考エラレズ。

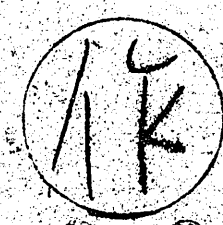
通二四三〇 天二日八（四七）五〇（高通 内山）（樂見）

人

至 急

四三 受信一四二五 譯始三二三〇 譯了二三一五 電〇〇二〇五八七 作概〇 航本

昭和廿年四月四日



九三一空 (佐伯航空基地)

九三一空 (成航空基地)

海上護衛隊口・一護衛艦隊口・九〇一航空隊  
東港航空基地・一〇二戰隊

機密第〇三一〇二七番電 二分ノ二

發 第九三一航空隊司令

電令作第五一號

一、藤澤基地派遣隊及第九〇一航空隊司令部戊基地進出後作戰任務ヲ取

止メ佐伯ニ歸投次期作戰ノ戰備ヲ速成スベシ

二、在佐伯部隊ハ右歸還部隊ヲ收容スルト共ニ航本機密〇一一八〇九

電所示ニ依リ兵器ヲ整備充實スベシ

通二〇〇一五七 呂一Bケ七 (B) 英 金成、千榮(三石) (一)

836



河津佐伯部隊へ茂森地ヨリ聯邊ノテノヲ含ムノ戰備總成ハ別ニ指令  
 ノル迄天一號作戦加入ヲ目途トシテ之ヲ實施スベシ  
 因本職ノ行動ハ別令ス



四三  
 受信一七二四  
 譯始二〇二四  
 譯了二一一三  
 電 〇〇二〇二二  
 航作 〇〇二二二二  
 概本 〇〇二二二二

緊急



海軍省 第三部隊

海軍總司令部 佐鎮・鎮警・上根ト・九〇一空

一 海軍艦隊 F

機密第〇三一二〇七番電 二分ノ一二

837

海八機密第〇三〇一四五番電開聯

同時刻味方機夜間暗飛ヲ實施シアラス尙通信謀報ニ依レバ成都方

面ノ〇一二九番同夜間少數機ヲ以テ東海方面暗飛ヲ實施中ニ付對

空警飛ヲ駭ニスルト共ニ夜間左ノ點符ニ留意アリ度

一 對敵準備完成ノ上味方識別(戰時味方識別規定參照)ヲ行フ

二 夜間飛行暗飛豫報(連々モ午前中)

三 混航防止ノ爲夜間飛行機ハ暗飛時外方ヲ暗飛ス

起二一五七  
二六六八

天二〇分八(九八三〇) 在二波

久保田 (新川)

昭和廿年四月四日



平

四三

急 受信一七五二〇〇

譯了一八一〇

電〇一八三七

作概

空

昭和七年四月

局長	第八	空襲部	調査部	航空基地	通信所
一課	機	密第〇三	二五三	電	

第三八一空隊戦闘概報(四月三日)

二二日〇八三〇B一三四 二機バリツタバソ來襲零戦二機ヲ以テ邀撃セルモ捕捉セズ(敵ハ投弾セズ)

二三日一〇三〇ヨリ約一時間B一三四 二機BB附近偵察零戦二機ヲ以テ邀撃戦果被害ナシ(敵ハ投弾セズ)。

通二六六五 呂一Bケ七一七五九〇K(一〇通 原(福田)

①

作

四四

受信〇〇七五〇  
譯始〇八四一〇

譯了二二二八

電〇〇二二二二九八

作標〇・艦政  
東監

昭和廿年四月五日

東京通信隊・横濱在勤武官

839

機密第〇三一三一〇番電 二分ノ二

宛 濱港警司令官 横須賀軍需部長 相模工廠長 在東京監督長  
通報 軍務局長

密 横銀信電令第一一二號 軍務機密第〇一一五四番電 國聯

濱田、川崎方面空襲ノ算大ナリ 横濱港灣警備隊司令官ハ川崎、鶴見方

面重要工場（日本鋼管株式會社、川崎及鶴見所在工場、富士電機製造株式會社川

崎工場）煙幕遮蔽實施計畫ヲ至急立案其ノ一部ヲ提出スベシ 在東京海

軍監督長及相模工廠長ハ右ニ協力スベシ。  
東通註 本隊ニテハ相模工廠ニテ處理シアラズ  
通二四九三 出二五七（一）二六〇（一）横通 國村（在田）  
二六六九





保安緊急

四三

受信一七四二  
開始一九〇〇

譯了一九三〇

電〇一八五五

空 厄

格 宿 航 空 華 能

840

鹿兒島航空基地。第四海上護衛隊

鹿屋航空基地。博多空。二二二空

機密第〇三一三二二番電

宛 第八〇一航空隊基地指揮官

瑞雲一機今朝伊集院靜引村網嶽不時着又 搭乗員重傷 詳細鹿兒島  
防衛隊ニテ連絡救助 御手配ヲ得度

通二一五二 日一五七(六四六〇)カ 力二ヶ谷 岩田(猪狩)

一九四四年四月一日



四三 受信〇七三五 譯了一三〇五 電〇二二三〇 作

揚根

841

支那方面艦隊

總長。上根。南京警。二遣支艦隊。海警

一海防隊

機密第〇三一三二四番電 三分一

通報 上海南京在勤武官

揚根戰艦編報第二三號(四月二日)

一三二〇P一五一 四機九江ニ來襲セシキ艦船部隊ハ陸隊本部ト

協力之ヲ攻撃退セリ 海軍側被害軍需部廳舎及同倉庫一小破同倉

庫一中破内作業場大破軍需品被害僅少 無傷一下士官兵集會所小破。

一電信課註 本電二分ノ二既配布

通二二八四 呂一三九七(四〇四五KG)上海

吳山(山中)



人

緊急

國 三 受信 二二一三五 譯了 二二三二〇 讀 〇一九三七 作概 〇 航本



五基地航空部隊

六三四空淡水航空基地

機密第〇三二四〇五番電

842

水爆隊戦闘概報(二日)

一 瑞霧一型二機〇一〇〇及〇三二〇古仁屋機隊輸送船團攻撃一機  
油漏洩ノ爲引返 一機未歸還機果不明

二 零式水偵二機二三四五發古仁屋作戰輸送零水一機指宿古仁屋間作  
戰輸送實施明後五日ヲ以テ一編古仁屋作戰輸送終了豫定

三 實動機數瑞霧三機零式水偵三機

通二二六八 呂一〇七(五)八五(四)小崗山 出中(以田)

昭和廿年四月四日



四二 受信二一五五 了

電〇二二二五

作添〇

昭和七年四月五日

急

共

符

海上護衛總部 隊 P P

大海參一部・軍務局・各地在勤武官  
聯合艦隊口・支那方面艦隊口

機密第〇三一四一〇番電

843

Q E B 參謀長

關門及内海方面敵ノ機雷作戰近日激化シ帝國海運ニ重大ナル支障ヲ  
來シツツアルヲ以テ之ガ防衛及掃海ニ關シテハ既ニ指令セラレシ所  
ニ進ヒ各部ニ於テ緊急對處方促進スルト共ニ一方博多及喜日本諸港  
等ニ對シテ豫期以上ニ海運ノ集中囑發ヲ見ル段階ニ達セルニ付即刻  
之ガ對策ニ海上交通保護事務ノ劃期的的強化及荷役等ニ關スル運輸船舶  
機關トノ連絡緊密化並ニ前記同様ノ防衛及掃海準備等ニ講究並ニ實  
施相成度

通二一四通二一五

天二日夕八



作

四三 受信二〇四五 譯了二一五〇 電自〇〇一九〇〇九七 航作概本〇

作戰緊急

佐世保航空基地

指宿航空基地

作

海上設衛線口・聯合艦隊口・佐鎮・五航空艦隊口・四海上設衛線口  
沖根・鹿屋・佐世保・指宿・鎮海・小祿・龍華各航空基地  
844

機密第〇三一四二八番電

三分ノ二二三

九五一空電合作第一〇二號 左ニ依リ沖繩島附近所在敵艦船ノ奇襲攻

擊實施各隊指揮官ハ發進隊編成報告スベシ

一 攻擊要旨夜間敵單獨(少數)又ハ端末ノ輸送船搜索奇襲

二 攻擊隊編成

(イ) 攻擊第一小隊 本隊零水三機 指揮目内田中尉

(ロ) 攻擊第二小隊 指宿零水三機 (古仁屋機ヲ含ム) 攻擊(指宿派遣隊長所定)

二二二六・二二二七  
二三四八

天二〇五八(四九〇五)佐通

菅原・東野・高原(田中)

昭和廿年四月四日

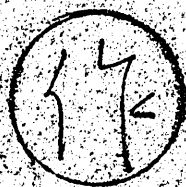
三 攻撃要領

- (イ) 小隊毎ニ日ヲ異ニシ實施スルモノトス攻撃實施期日ハ本職下令ス
- (ロ) 攻撃隊ハ佐世保（指宿）基地ヲ發進攻撃終了後古仁屋ニテ補給夜間發進歸

(ハ) 右以外ノ細目ハ各指揮官所定トス

四 四月五日日本攻撃ヲ開始ノ豫定。





四三 受信一七一八  
開始〇八三〇

電〇九一〇 電〇二二一九

作概

昭和廿年四月五日



二二二(特)根戦闘概報着信處所  
二南道監隊

三一四五〇



二

二

根

△

845

ニKB 戦闘概報四月三日

一〇五〇ヨリ一三〇迄日二四 二機高度六千米ニテ「バリクバハ  
ン」地区ニ侵入零戦六機發進地上砲火ト協力之ヲ撃退セリ

ニ戦果被害ナシ

身敵機ハ投擲セズ高度ニテ市内及周邊上空ヲ旋回反覆偵察セルハ特  
ニ行動ナリ。

三二二二八

協作(一八三六五〇)二二二通

資料(一高稿)

人

四三  
受信二〇九二〇〇  
譯始二〇二〇〇  
了二一三〇  
電電〇〇一九一〇  
航作機本〇

作機緊急



第七基地航空部隊着信所

作戰命令

應屆航空基地

機密第〇三一六三五番電 二分ノ一二

七FGB電令作第二二五號

七FGB殘留部隊指揮官ハ四月十五日概ネ左記兵力ノ九州方面

配備基地展開ヲ目途トシ第二次天空襲部隊ノ編成並急速練成ヲ

實施スベシ二五二部隊零戰三六零夜戰二〇二一〇部隊零戰一

五燈爆一二燈攻一一彗星燈偵一〇七五二部隊燈爆一〇六〇一

部隊零戰二〇紫電八陸上爆擊機一〇一三一部隊天山二〇二

一二部隊陸攻隊一二彩雲隊一三七〇六部隊陸上攻撃機隊及銀

通二三〇〇八  
呂一Bケ七(七八七五K)一KFG放  
高橋(阿波)

昭和廿年四月四日



軍隊一

三 各部隊指揮官ハ餘乗塔乘員及展開途上ノ不時着塔乘員並所要整備員一隊一部(幹部ヲ含ム)ヲ原隊復歸セシメ右編成ヲ促進スベシ。

人

作野繁急

四三 受信一八四〇 譯始二〇一五〇 譯了二二〇〇 電〇一八八一

作概〇

昭和廿年四月四日



第一〇二航空戦隊  
霞夕浦空。筑波空。百里原空。名古屋空  
一〇〇一空。一〇八一空

鷹屋航空基地

847

機密第〇三一七〇一番電

發 一〇A 參謀長

當隊可動兵力急速展開ノ爲貴隊輸送機左ニ依リ四日成ルベク早朝  
派遣協力ヲ得度(輸送機派遣場所機數展開基地ノ順)

一 筑波空二機鹿屋

二 百里原三機串良(一機)第一國分(二機)

三 名古屋空二機第一國分

通二二〇一 呂一B 切七(一〇二六五EG) 五A 切P

半澤(阿波)



人

四 受信〇五二七 譯始〇七〇〇 了〇八一〇 電〇二六七一 作 區

昭和廿年四月六日

作

第一護衛部隊

共符

人事局 20.4.11 配資

海上護衛總口・一〇方面艦隊口・聯合艦隊口・鎮守府・上根▽・佐銀

848

機密第〇三一七一四番電 三分ノ二

九三一空特令スル迄整備訓練

四 東海哨戒部隊一〇二戰隊司令官 電令作發動時ノ▲自三中第一第二

第三各哨戒部隊▲自三作戰(日滿支交通保護)

五 護衛部隊直率哨戒部隊ニ編入セザル全部特定航路ノ船團護衛及訓練

整備。

一 電信課註 本電三分ノ二、三既配布

通三四六三一 天一〇ケ六 (五二〇〇KC) 佐通 田中(三石)

四 四  
受信  
了始  
一〇〇  
〇五〇  
〇二四  
〇五〇

電電自  
至〇〇  
二二  
四四  
〇〇  
五〇  
東京  
在

昭和廿年四月五日

至 急



○ 總無線艦所。總 艦 船  
○ 水 路 部

高 警 849

機密第〇三一七三〇番電 六分ノ一三三四五六

臺灣北部危險物設置ニ付左記區域ノ航行禁止ス

一 基隆方面

(1) 航行禁止區域 東經一二一度三五分線以東 東經一二二度線以西  
北緯二五度二五分線以南及鼻頭角ノ九〇度線以北海面

(2) 基隆出(入)航路

通 二三五九・二二六六・二二六一 夫一〇七五(四五七二五〇) 高二放  
二三五五・二三四二・二三五六 ノル・高井・号五号  
神田・七夕・飯本 (一) 機 (二)



(一) 東方航路東掃海水道端ヨリ九〇度線以南ヲ經テ直航海面ニ達ス  
(二) 西方航路西掃海水道ノ西端ヨリ〇度線以西海面ヲ經テ可航海面

ニ達ス

(イ) 東掃海水道（位置ハ基隆島（二九）ヨリノ方位距離）Aノ二二

五度四一〇〇米 Bノ一四五度四六〇〇米 Fノ一一九度

九七〇〇米 Gノ一一五度一五四〇〇米ノ北側六〇〇米以

西掃海水道（位置ハ基隆島（二九）ヨリノ方位距離）B（二八

九度七九〇〇米）C（三〇六度一三六〇〇米）D（三〇八

度 二（二八〇〇米）ノ北側六〇〇米

(イ) 前記各點ニハ航路標識ヲ設置シアリ

ニ淡水 新竹方面

(イ) 各禁止區域北緯二四度四〇分線以北及以前ノ三一五度線以西ニ

シテ距岸二〇哩以内海面

(ロ) 淡水出（入）航路掃海水道東端ヲ過スル〇度以東海面ヲ經テ可

ニ

航海面ニ達ス

(イ) 掃海水道(位置赤仁塗崎(二七)ヨリノ方位距離) A(二二二

六度九四〇〇米) B(三一八度・一九〇〇米西側六〇〇米)

(ニ) 前記掃海水道點ニハ航路標識設置シアリ

850

三 海口泊地方面航行禁止區域

北緯二三度四〇分線以北及 北緯二三度四五分線以南ニシテ距岸二哩

以內海面

四 宜蘭方面

(イ) 航行禁止區域 北緯二四度三七分線以北及 二五度線以南 東經

一二二度一五分線以西海面但シ次項基準航路ノ航行ハ差支ナシ

(ロ) 北(南) 基準航路

(一) 南可航海面ヨリ距岸二哩 以內ヲ北上ホウシ山(六八〇)

龜山島(四〇八)ヲ通マル線ニ達シ二二二度ヨリ針路九三度ニテ

昭和廿年四月五日



龜汕頭ノ距岸二漚以内ニ達ス

〔龜汕頭島ノ距岸二漚以内ヲ接航シ東廻ニテ龜山島(四〇八)ノ  
屏風山(四四四)ヲ通ズル線ニ達シ此レヨリ針路七度ニテ北上  
シ距岸二漚以内ヲ經テ距岸二漚以内ヲ接航北上シ北可航海面  
ニ達ス。〕

〔東通註 本電不明箇所再送要求中〕



廿年四月五日

四四

受信一八〇二

譯丁二〇二〇

電〇二五〇〇

災海

緊急

基隆防備隊



東通。各地方在勤武官。海警。一護衛艦隊口  
海上護衛總口。馬根

上根。厦根。香根

機密第〇三一九〇〇番電

二分、二二

宛 大海參一部長軍務局長 水路部長

基隆港附近危險物ヲ設置シ基隆島ヲ中心トスル一三哩圈内ヲ航行禁止海面  
トス可航水路左ノ通

一東掃海水道(可幅六〇〇米)入港法鼻頭角燈臺ノ三三八度一六〇〇

米黒浮標ヨリ針路三七九度ニテ万人雅鼻ノ三一九度一五〇〇米黒浮標

(A)ニ達シタル後入港

二六

二七四

二八九〇 天二〇ケ六(二二五二〇〇) 高通

藤野、後浴、宗



二西「水道」(可船港外六〇〇米)入港法富骨角燈臺ノ八三度八八〇  
 〇米赤浮標ヨリ針路一三二度ニテ四湮航行ノ後シシ頭鼻ノ三八度西  
 三〇〇米赤塗浮標ヨリ一四七度ニ變針前項A浮標ニ達ス。

God

⑤

四四 受信 〇〇五〇一六 譯了 〇六三五 電 〇二一六五 作概 〇・航本

緊急

符

符

作

一〇二戰隊

海護總口・一護衛艦隊・三哨戒部隊・A B 三部隊

機密第 〇三一九一一番電 二分ノ一

852

第八號海防艦長

貴機密第 〇三一〇一二番電返

視界五杆中現機 (双發方向舵二) 腹部ニ白燈一個高度二〇〇ニテ右一

四〇度 (針路東) 側ヨリ來襲水平 (受信機) 二箇 (六番程度) 一

回彼我共ニ味方識別ヲ表示ス。

(電信課註 本電二分ノ二未着)

通二四四五 天二日ヶ八 (B) 吳通 大石 (詳見)

昭和廿年四月五日



JN

48

受信〇八五五七  
開始〇八五五〇

電丁〇二〇二〇

電〇二二八四

作概

昭和廿年四月五日

作

● ●

二十二特根戰團概報着信處所

二十二根所屬隊

●

二十一通

機密第〇三一九一七番電 三分ノ一

通報 一〇二施設部長 水民長官 一〇一燃料廠長

戰團概報第二五〇號 四月三日

一三三八 北方ヨリP1三八約二〇機五乃至七機宛波狀侵入市街

及海岸南側ヲ銃撃我之ト交戦一四三五北方ニ撃退更ニ一七三五

頃迄ニB1二四 一機南方ヨリ侵入主トシテ對岸本島沿岸及港灣

水路。

一電信課註 本電三分ノ三未着

二二四七一 天一B六六六一二三五IC廿一連 石川(符)

853

2/Kg

人

作

四 四 受信 始 二〇二九 譯了 二一四五 電 〇二五二五 作 概

二 警 備 隊

二 根 戰 剛 撤 着 信 監 所

? . ?

機 密 第 〇 三 一 九 一 七 番 電

三 分 〇 二

附 近 〓 低 空 旋 回 偵 察 附 近 帆 船 〓 銃 聲 一 八 〇 二 北 東 二 去 〓

三 戰 果 擊 三 被 害 重 傷 者 施 設 部 工 員 一 名 死 亡 重 傷 人 夫 六 名 遭 難 者 三 名

重 輕 傷 者 軍 人 夫 二 名 遭 難 者 八 名 家 屋 全 半 壞 七 〓

一 電 信 課 註 本 再 三 分 〇 二 三 既 配 布 〓

通 二 七 〇 五 一 〓 六 六 ( 一 八 三 六 七 五 KC ) 二 二 通

渡 部 ( 田 中 )

昭和廿年四月五日

854



249

四 四 受信〇九一〇四 譯了二三三〇 電〇二二九九 作 概

昭和廿年四月五日

第二警備隊

作

二三根戰艦概報着信艦所

二三根所屬隊・二一根

機密第〇三一九一七番電 三分ノ三

855

「リンカ井」油「タンク」離脱ノ爲漏油一箇所、油管各一箇所破壊（應急修理完成ノ豫定）タビツト貨車大型七乗用ランヂー 直撃彈ニ依リ故障帆船（民便乗）沈没一火災五。

一 電信課註 本電三分ノ一既配布 二未着

通二五一四 天一Bケ六（六一二二二、五）（二十一通）

小宮（山中）

昭和廿年四月五日

四 四 受信一六〇五 譯了一八四五 電〇二五五七 作 機

至 急



海上護衛總部隊

共

符

聯合艦隊口・二艦隊口・六艦隊・支那方面艦隊口・吳通(處)

機密第〇三二〇二四番電

二分ノ一

通報船舶司令部

G B B 機雷情報第二號

三月三十一日廣島灣ニ投下セラレタル敵機雷ニ就キ潜水學校ニテ調  
査セル主要性能左ノ通

一 全重量(落下傘裝置ヲ含マズ)四七〇斤全長(落下傘裝置ヲ含マズ)

一米六一〇直經四七煙落下傘附沈前部式

二 信管安全裝置及時限爆彈裝置ヨウ要式

電信課誌

本電二分ノ一未着

通二六八八

天二日ケ六(一二六)横道

利尾(高橋)

856

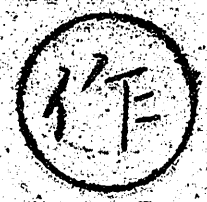
1014



人

四 四 開始 CC 五〇二四 了〇五四〇 電〇二〇三二 航作機本〇

松山航空基地



一機動基地航空部隊戦闘概報着信處所  
七基地航空部隊戦闘概報着信處所  
吳 鎮

機密第〇三二〇四一番電

三四三空戦闘概報第一一號四月三日

一 逸撃系電四機土佐沖移動哨戒ノ爲一〇四〇發進セルモ天候不良ノ引返ス一五〇着敵ヲ見ズ一二一三ヨリ一四一〇迄紫電一六機豊後水動ヨリ内海西部ニ侵入セルB一二九一機ヲ逸撃セルモ敵ヲ見ズ

二 明日ノ奮動系電四五機銀河〇機。

三 一二三三八 白一B七 (B) 六三 (和川)

昭和四年四月四日

857

昭和廿年四月四日

四三 受信二二三〇  
開始〇〇一四〇  
了〇三〇四  
電〇一九六七  
作 橋

至急



橋長・柳台海隊口

機密第〇三二一〇五番電

第三〇二航空隊戦術概報第二十三號 四月三日

- 一、關東地方ニ來襲（偵察）セルB-1二九 一機遠征ノ爲雷電三機ヲ厚木基地上空ニ配備一四五ヨリ一五五迄霞ヶ浦ヨリ大吹埵南方一五哩ノ間ニ於テ之ヲ攻撃ス
- 二、戦果機破一機
- 三、被害ナシ。

通二三三二 另二七々七 概通 渡邊（海見）



人

四 四 受信 〇七四 〇五 詳了 〇九五 〇 電 〇二五五 〇 作 概

緊急

カムラン 航空基地

九三六航空隊



一三航空 艦隊 一護衛艦隊 一護衛艦隊 西方面 一 根 九三六航空 派遣隊 一

機密第 〇三二一五五番 電

二分ノ二

通報 村山參謀

機動基地トシテ (バンゴイ) 側ニ急遽設營ヲナス本職並ニ爾余

ハ「カツトライ」ニ轉進

三「キノン」ハ一五〇ニ派遣ノ警戒隊基地管理依委ノ上 (カツ

トライ)ニ合同ス

四「ビニ」ホ「カ」ヲ緊急整備由來次第 (カツトライ)ニ派遣隊ヲ

同地ニ移動ス。 (通信課 本誌二ノ一未着)

二四八六 (兵一〇六八八) 佐連 (派) (上野)

昭和廿年四月五日

四 四 受信〇〇四一三四 譯了〇六〇〇 電〇二〇三四 整 基  
至 急 鹿屋 航空 基地

東 通・聯合艦隊口・大分航空基地

機密第〇三二二一五番電

860

發 五航空艦隊參謀長

宛 吳鎮參謀長

通報 軍令部第一部長 施設本部總務部長 吳施設部總務部長

大分基地ハ艦隊中樞基地トシテ緊急整備ノ要アル處現在飛行場作業

ニ從事セルハ施設部關係僅カニ〇〇名トラツク一臺ニシテ空襲

被害復舊モ困難ナリ現況ナリ緊急左記實現ノ上工事促進方取計ハレ度

一 施設部人員要具車輛ノ増強

二 持修兵派出

三 機甲兵力一〇〇〇名派遣（要具準備ノ要アリ）

通二三九一 呂一Bケ七（四七四二・五B）五航空艦隊

吉村（渡瀬）



四 四 受信 一一二二〇  
譯始 一二三九

了 一五〇〇 在 〇二二三六九  
高 〇二二三六九

昭和廿年四月五日

東海・聯合艦隊口  
一 航空艦隊口・支那方面艦隊口。二 遣文艦隊口。三 上陸密偵部隊各口。四 南西方面艦隊口。佐藤。海南管。沖繩方面根口。五 海空

機密第〇三二二二二番 三分ノ一、二三

四月二日敵機來襲狀況

一〇〇〇ヨリ〇四三〇頃迄ノ間四發機爆音一及偵察三目標臺灣

西海面ヲ北上シタルヲ探知シタルモ〇五四五迄ノ間何レモ南方

ニ脱去スリ

二 P一四七 七機〇九一五南方ヨリ岡山及臺南地區ニ侵入一〇三

〇頃南方ニ脱去スリ

三 〇九〇七頃 B一三五 一一P一四七 六南方海面ヨリ臺灣南部

地區ニ侵入新營街ニ對シ銃爆撃後一〇三〇頃迄ノ間ニ外海南方ニ脱

通 二五三〇・二五七二 呂一Bク五(九一四五) 高橋・須具・坂本(飯田)

丁



去ヒリ

四一五二頃ヨリ一二五九頃迄ノ間ニPEM一機PJ三八 四機P

一五一 四機B一二六 一八機B一二五 一〇機臺灣島南方ヨリ

高雄臺南地區ニ侵入セルモノ一三四〇頃迄ニハ逐次兩方海面ニ脱去

ヒリ

五一六〇頃及一七〇六頃B一二四各一機西岸附近ヲ偵察彼一七二

一頃迄ニ脱去ヒリ

六戦果ナシ

七被害

(1)海軍側ナシ

(2)民間側全壊焼三〇棟半壊焼二九棟死者四名重傷者一名新營驛附

近線路不發彈二發ノ爲一時刻列車不通

八、三十一日入泊シタル後基隆ニ於テはいかる丸日光丸至近彈ニ依リ

小破大雅丸直撃彈ニ依リ大破車部出張所倒壊或死六員一三具

ノ他民間側ニ於テ家屋數戸倒壊焼失

(一)